

日本民家園見学会を開催しました（2019.11.2）

本部事務局

2019年11月2日(土)、毎年恒例の本部主催「日本民家園見学会」を開催しました。

今年は参加者数も増え8か国からの留学生とその家族を含め27名となり、好天にも恵まれて参加者にも好評の見学会となりました。

以下、駒沢大部会会員の白井さんから寄せいただいた見学記をご紹介します。

日本民家園見学会に参加して（2019年11月2日）

駒沢大部会 白井信雄(三井住友銀行OB)

11月2日(日)、本部主催の日本民家園見学会に、駒沢大学部会から留学生7名と会員3名計10名で参加しました。連休の谷間かつ学園祭の期間中ではありましたが、天気にも恵まれたこともあり駒大からの参加者は昨年より増加。他の部会からの参加者も含め総勢27名(内訳:留学生とその家族19名、会員6名および事務局2名)。

留学生の国別では、バングラディシュ5名、韓国5名、台湾4名、米国、カナダ、トーゴ、中国、ミャンマー各1名と多彩な顔触れでした。

日本民家園は川崎市の生田緑地内にあり、古民家の保存を目的に東日本を中心に全国から移築し開園した古民家の野外博物館です。ここでは、建築された年が特定できた北村家住宅(1687年、神奈川県秦野市、国指定重要文化財)や越中五箇山の合掌造り江向家住宅(18世紀初期、富山県南砺市、同国重文)など貴重な建物を建築当時の姿に戻して展示しています。

当日は小田急向ヶ丘遊園駅に集合、15分ほど歩いて民家園に到着。民家園では、三井V-Netの会員でもある民家園ボランティアガイドの近藤様から説明を受けた後、日本語グループと英語グループに分かれ見学スタート。

まず、本館展示室で古民家に関する基本的な知識を学び、その後園内に入る。奥州街道宿場町の「馬宿(うまやど)」、柳生街道沿いの「油屋」、伊那街道宿場町の「薬屋」と説明を聞きながら進むうちに気持ちは徐々に江戸時代。松の曲材を巧みに組み合わせた美しい梁を持つ九十九里浜網元の家作田家住宅(17世紀後期、千葉県山武郡、国重文)に感動。また、合掌造りの山田家住宅(18世紀初期、富山県南砺市、県指定重文)では、加賀藩の指示により家の床下で火薬の原料となる硝石(糞尿からでたアンモニアが土中細菌の働きで硝石に)を造っていたとのこと。この秘密を守るために五箇山の人々は外部との交流が厳しく制限されていたなど興味深い解説に留学生のことも忘れて聞き入ってしまうほど。近藤様の熱のこもった説明で、あっという間の2時間でした。



まずは本館展示室で基本知識

道端に置かれた道祖伸、道標などの石造物、民家内に展示された生活用具。さらに実際にボランティアの方々が起こした囲炉裏の揺らめく炎や煙の臭い。そして家々を囲む紅葉が始まった豊かな木々。それらは私に、日頃忘れていた質素ではあるが豊かな自然に恵まれた「日本」の生活を思いださせてくれ、とても気持ちを豊かにしてくれる2時間となりました。留学生と訪問しながら、逆に「日本」を教えられる、これも当会の活動ならではの思いながら民家園を後にした次第です。

事務局のみなさま素晴らしい企画を提供いただきありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



建物遠景から説明



途中でもぐもぐタイムも



二組揃って、はいポーズ